

小田原再生可能エネルギー事業化検討協議会

平成 26 年度 第 3 回小水力発電事業化検討チーム会議概要

日時：平成 27 年 3 月 19 日（木）9:00～10:00

場所：小田原市職員福利厚生室

出席者（敬称略）

- ・小水力発電事業化検討チーム
遠藤和明、鈴木大介、田嶋邦典、永井源太郎、西山敏樹
- ・小田原市事務局
エネルギー政策推進課長、エネルギー政策推進課副課長、エネルギー政策推進係長、
エネルギー政策推進課係員 2 名
- ・オブザーバー
押田健一（小田原市 建設部 道水路整備課）

概要

1. 荻窪用水における小水力発電事業の事業化検討について

- 事務局から資料に基づき、荻窪用水における発電水利の取扱い、想定発電設備設置場所の検討状況、想定発電設備設置場所における事業費等を報告し、各委員から意見を伺った。

主な意見

- 発電設備の設置場所について、5つのパターンを想定し、各パターンの評価をしているが、「事業化」という検討では、事業採算性が一番重要である。事業採算性が×であれば、総合評価は×になるのではないかと。
- 事業化を見込むためには、事業費を最低でも約1億5千万円削減する必要がある。
- 小水力発電事業は、太陽光発電事業と比べて維持管理費用が多額になる。
- 加えて、荻窪用水における小水力発電事業については、荻窪用水の老朽化が進んでいることや開渠となっている箇所が多く、ゴミや草等の流れてくる量が多いことから、一般的な小水力発電事業よりも多額の維持管理費用を要することが想定される。
- 荻窪用水は老朽化しており、現況でも維持修繕を必要としている。
- また、暗渠部分については、地震で崩れる可能性も高い。過去、関東大震災の時に暗渠区間で崩れた箇所があったと聞いている。
- 河川内に発電機を直接設置する開水路型発電機は、発電機を設置した河川に水圧等の負担がかかる。荻窪用水は、これに耐えることが出来るか不安である。
- 事業費を精査するには、概略設計・詳細設計等が必要になるが、それには多額の費用を要する。
- 事業採算性が見込んでいない状態で多額の費用を要して概略設計・詳細設計を行うことは現実

的でない。

- 現況、発電事業を行う事業者が現れる可能性は低いのではないか。
- 事業化については、事業採算が合わなければ実現不可能であるが、その先の何を指していくかによって選ぶパターンも変わってくるのではないか。
- 例えば、発電出力は低いが低価格な事業費で実現できる小水力発電の場合は、普及啓発を目的にシンボリックに設置することも考えられる。
- しかし、シンボリックに小水力発電設備を設置するために、数千万円かけることに意義を見出すことは出来ない。また、小水力発電設備を設置すれば、多額の維持管理費用を毎年捻出しなくてはならない。
- シンボリックな小水力発電事業を行うために多額の税金を投入することは現実的ではない。

2. 協議会における報告内容及び報告の仕方について

- 事業採算性を見込むことが出来ないことから、荻窪用水における小水力発電事業の事業化は、実現性に乏しいことを報告する。
- 協議会へ報告する際は、多額の維持管理費用を要することや河川が氾濫するといった危険性があるといったコメントを付け加えたほうが良い。

3. その他

- 荻窪用水における小水力発電の事業化検討については、事業採算を見込むことができないことから、ここで一区切りとする。
- 4月に小田原再生可能エネルギー事業化検討協議会を開催し、本日の会議内容についてを報告する。